



桐花

大槌町立吉里吉里学園
小学部 通信 No10
令和6年12月3日
文責 藤井

吉里吉里学園小学部の校報「桐花」は右のQRコードを読むことによってカラー版をご覧いただくことができます。(大槌応援団サイトへ) →



令和6年もいよいよ最後の月を迎えました。今年は1月の石川県における震災によるスタートとなった1年でした。本学園においては小学部中学部共同での募金活動に取り組み現地の学校への支援金を届ける事が出来ました。先日支援金を贈った「輪島市立東陽中学校」よりお礼の手紙等が届きましたので紹介いたします。

PTA・教職員のご皆様

岩手県大槌町立吉里吉里学園小中学部

輪島市立東陽中学校生徒会

令和六年 十月十八日

敬白

これからますます寒さが増してきます。どうかお体に気をつけてお過ごしください。

ありがとうございます。

お茶会も、笑顔あふれる楽しい会にすることができました。皆様のご支援のおかげです。

校舎をお借りしている能登町立柳田中学校の皆様と合同で行った文化祭もイベント

支援金は、文化祭の準備やイベントとして行ったりお茶会などに使わせていただきました。現

支援金は、文化祭の準備やイベントとして行ったりお茶会などに使わせていただきました。現

拝啓 暮ら寒舞い散る季節になりました。皆様はいかにお過ごしでしょうか。



輪島市立東陽中学校 文化



あらためまして、石川県の被災地の皆様の復興をお祈りいたします。

令和6年度大槌町「住みよい町づくり作文コンクール」

11月29日(金)「おしゃっち」において、今年度の「住みよい町づくり作文コンクール」入賞者の表彰式が行われました。入賞者は3年生東梅紗千さん・4年生川口海翔君・5年生小野寺萌香さんの3名で、教育長様より表彰状を頂きました。会場では作文の発表もあり、「ふるさと大槌町」の良さを実感できる時間でした。



仲間

吉里吉里学園五年 小野寺 萌香

「おはよう。」

そう言つて、いつも五年一組の教室へ入る。そこには、五年間ずっと一緒にいる楽しいクラスのみながいる。

私は、人一倍怒りやすく、家族とはいつもそのことでけんかしていた。私は深く悩んでいた。でも、五年生になってからは、怒りっぽさは、前と比べて落ち着いてきている。こうなっているのは、五年生のおかけだと感じている。

ある日の私は、家で兄弟とけんかして、学校でも気の合わない友達とけんかになった。イライラは最高潮……。でも兄弟とは違い、友達とは仲直りが気持ちよくできた。イライラを持ち込んでまともに授業に参加できない時、私を慰めてくれるのも五年生の仲間だった。別の日、体調不良で学校を休んだことがあった。家で横になっているうちに体の調子はよくなってきたが、一人でいると何だか寂しくなってきた。みんなの顔が次々に浮かんできて、会いたくて話したくてたまらなくなつた。「私はみんなのことが大好きなんだ！仲間は私にとつてかけがえのない存在なんだ！」と、気がついた瞬間だった。私の家は、みんなの家から遠く離れていて、これまで放課後に遊ぶことはあまりできなかった。

でも五年生になり、家族の協力で送迎してくれることになった。放課後一緒に過ごす楽しい時間が、急激に私とみんなを近づけた。遊びだけでなく、授業中だつてそうだった。ふとした時に誰かが冗談を言い、みんなで笑い合う。難しい問題が出ると、考えを交流するためにみんなが集まって話し合う。協力して答えを導き出す時には、一人一人の意見を聞くことができる。その時間が私はとても好きだ。

最近、あることを思う。それは、「みんなといつまで過ごせるのだろうか」ということ。ふとした時にいつも考えてしまうのだ。みんなと会えなくなる日がいつか来ると思うと、私は急に怖くなり、寂しさで涙が出そうになる。悲しそうに私を見て、仲間が声をかける。しばらく話すと怖かったのが嘘のように晴れやかな気持ちになる。「みんなと過ごす今を大切にしよう。」私の心には、いつもみんながいる。五年間、みんなと過ごした中で、楽しい事も苦しい事もあった。いろんな事を一緒に経験しながら親しくなり、そしてお互い成長してきた。これから、大人になつても、好きなことを分かち合つたり、たくさんのおいしさを温め合つたりして、互いの成長を喜ぶ、そんな関係でいたい。

今日も、「こんなことがあったな。」と思い出しながら家路につく。そして、明日も、楽しいクラスの仲間が私を待っている。

5年生ふるさと科「海の学習・藻場再生」



昆布の胞子を海に放ち育てます



今年も大場さんやボランティアダイバーの方々、藻場再生組合の方々のご指導を頂きフィッシャリーナに昆布の再生のための「スポアバック」を設置しました。これは全国に広がっている「磯焼け」対策の一つです。昆布の成長が楽しみです。